

S. U. 英語英文学科・4年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後、現地で使うお小遣い用にと毎日ひたすらアルバイトに明け暮れていました。朝5時から旅館で働き、昼間は大学、そして夜もまた働いて…と今思えばかなり過密スケジュールだったように思います。語学勉強はあまりせず、心配だったスピーキングの練習だけ毎日欠かさずしていました。(と言っても TOEFL のスピーキングの問題をちまちまやる程度でしたが。) 実際現地での生活が始めるとスピーキングは自然とすぐに上達するので、私のように心配し過ぎる必要はないかなあとと思います。

ビザ申請手続きに関しては結構手こずりました。カナダビザはなかなか審査が厳しく、入学証明書や滞在先の住所、その他多くの書類を同封しなくてはならず時間がかかりました。申請時は内容が条件を満たしているか何度も見直して申請する事をお勧めします。一回申請を失敗すると私のように一万円失うこととなります。(笑)

出発前日の3月11日、東日本大震災が起これ、随分と気持ちが不安定になったのを覚えています。飛行機はすぐに代えの便が手配出来ましたが、搭乗時は自分の家族や友人、そして日本全体が心配なのと留学に対する不安が混じり、これから留学が始まるという時にズドンと気分が沈んでしまいました。しかし、その時、機長が離陸前に「震災で被害に合われた方々が一人でも多く助かりますよう心よりお祈り申し上げます。日本に希望を。」と挨拶し、それに対して乗客の外人さん達が拍手する光景に感動し、非常に励みになりました。

② 現地到着後

現地到着後、空港から空港に着くと既に PLI の案内員の方が待機しておられ、移動もとてもスムーズでした。たまたま関西から来たという日本人の OL の方と一緒にになり、移動中はひたすらぺちゃくちゃ喋り続け、20分程したらホームステイ先に着いていました。玄関に入った瞬間から大音量で音楽が流れ、家族皆がダンスをしながら迎えてくれて、なかなかインパクトのある初対面でした。

翌日 PLI に向かった際、トロント校はビルの中にあり PLI の看板も無かった為なかなか見つけられず、時間に余裕を持って出たのにも関わらずオリエンテーション開始ギリギリに着きました。前日にグーグルマップなどで場所を調べておくといいかもしれません。

オリエンテーションでは PLI 施設案内からクラス内容、そして近隣スポットやトロント観光についてとても丁寧に説明してもらえました。

③ 語学研修期間 (ESL, Academic Skills Study)

◆ 語学研修先の施設・環境について

施設は大きすぎず小さすぎず、部屋も綺麗で、一階にはカフェもあったので良い環境だったと思います。夏になるにつれ生徒数が増え、少しくラスが足りてないような印象も受けましたが、基本的にクラスは少人数制で一人一人の先生の質も高かったと思います。さらに都会に面していた為立地としてはとても便利で、よく授業が終わった後に皆で近くの映画館へ行ったり、ショッピングしたり、美術館や博物館に行ったりと、息抜きにも最適な

場所でした。国別で生徒の割合を見ると、韓国人とサウジアラビア人の比率がかなり高かったと思います。

トロントは本当に多くの民族が共に生活しており、電車に乗っているだけでも10カ国以上の言葉が聞こえてくるのが日常でした。外国人の少ない日本から来た私達にはとても刺激的な街だと思います。そんな環境だからか、英語以外の言語を学ぼうとする人が多く、あちこちで言語を教えあう交流の場が沢山ありました。例えば、休日にトロント大学で無料開催されている「JCSA」では、トロント大の学生やトロントに住む一般人の方々に日本語を教え、代わりにこちらでも英語を教えてもらう(特に会話中心)企画があったり、もっとラフな形としては、カフェで日本文化に興味のあるトロントの人達と数時間喋りっぱなしのイベントが毎週開催されたりと、ネイティブの人と接する機会は自分さえ動けば沢山あちこちに転がっています。

◆ 授業内容、課題、試験

上記にもありますが、クラスは基本少人数制で、先生と生徒の距離はかなり近かったと思います。ただサウジやブラジルの生徒がたくさん発言するので、スピーキングの授業以外では自分から積極的に発言していかないとなかなか発言する機会は無いかもかもしれません。しかし、この環境の中で発言出来るようになっていくと、自分のスピーキング力にも大分自信が持てるようになると思います。

前期は TOEFL、後期に UFC コースを受講したのですが、TOEFL は家に持ち帰る課題は少なかったものの授業内容が(私の印象では)なかなかレベルが高く、クラスにも英語力がネイティブに近い生徒も混じっていて、大変ではあるもののとても勉強しがいのあるプログラムでした。UFC コースではもっと実際の大学の講義に沿った授業が行われ、課題の量も増えて行きました。大きい課題としては、一回目に約800字から1000字のレポート、そして二回目の1000字から1500字レポートがあり、これは自分の好きなテーマについて調べて書くといった内容でした。さらにそのレポート内容に沿って、プレゼンテーションをする場も2回あり、毎回フィードバックがもらえる為、自分の改善点が分かったり効果的なスピーチ方法などを学ぶ事が出来ました。

少し日本人メンバーとサウジの子たちの授業態度にギャップがあり、たまに集中出来ない時もあったり、稀にやっている事の趣旨が掴めない授業もありましたが、総合的に見て先生の教え方はとても丁寧で、大学準備期間前に受けるコースとしては最適だったのではないかと思います。

④ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

モンクトンの空港に着いた瞬間からその土地の空気や雰囲気はトロントとは全く異なり、大都会から一気に地方に来たような気分になりました。標高も高く、まるで山の頂上にいるような澄み切った空気に感動し、さらに深夜に着いたこともあり空港から大学へ向かう道のりでは空に広がる満天の星空に見惚れていました。街全体もとても小さく、ダウンタウンも交差点の一角にぼつんとあるだけで、スーパーとドラッグストア、居酒屋、そしてレストランが必要最低限数しかありませんでした。しかしその分街全体がマウントアリソン大生歓迎ムードに包まれ、アットホームな環境だったと思います。週末にはダウンタウ

ンのカフェで手作り料理やお菓子が販売される朝市のようなものがあり、日本食やクッキーなど色々と手に入ります。

さらに、大学自体が生徒の生活の中心となり、生徒同士の交流も深まるような環境だったと思います。大学にはカフェやジムもあり、生徒はみんな思い思いの時間を大学内で楽しそうに過ごしていました。勉強を寮の部屋やカフェで一緒にやったり、夜はラウンジでみんなで徹夜して朝日を迎え、朝ご飯をみんなで食べたり…と、ここで出会った友人達とは本当に毎日共に過ごし深い関係が築けたように思います。

◆ 履修科目

どの科目も基本的には一年次向けの授業しか取れませんでした。

*しかし三年次、四年次の研究内容レベルのクラスでも教授に直々にお願いをすると受けられる可能性もあります。私自身、一度「17th Century literature」という三年次のクラスを、知り合いの上級生の紹介で履修許可を教授から頂いたのですが、実際授業を受けてみると授業の難しさに着いて行けず諦めるといった事がありました。やはりそれなりの語学力が伴っていないと、許可を得ても授業を受けるのは大変かもしれません。

一年次向けの授業でも充分ボリュームがあり受け応えがありました。

English / Introduction to Principles of Literary Analysis

－履修経緯

元々日本でも英米文学を学習していた為、それを英語の授業で受けてみたかった。

－内容

主に詩、お芝居（シェイクスピア）、散文、小説の読解と、「文章」の訓練をした。授業の前半は「文の書き方」について解説があり、後半で課題の文庫について解説していく。グループワークで意見を言い合う機会が多かった。

－追記

日本人が日本文学を専攻するのと同じで、ネイティブの為の英語の研究なので、**English**は留学生には少しハードな内容だった。「文章読解」という漠然としたテーマなので、本をしっかり読んでさらに自分なりに理解しないとグループディスカッションで発言するのは難しかった。

Canadian Studies / An Introduction to Canadian Culture

－履修経緯

三年次にSonoゼミで「People o Color on Stage and Screen」というテーマでアメリカの多民族・多文化社会について研究していた。その為、同じような社会構成のカナダ文化を研究するのは面白いと思った為。

－内容

カナダ文化。そして社会をあらゆる面から解き明かしていく。これだけ多くの異なる民族・文化で成り立っているカナダ社会にとって、「真のカナダらしさ」とは何かを追求していく。講義内容自体は一番親しみ易くて、英語も簡単で理解し易かった。

History / France In The Age Of Revolution

－履修経緯

過去にフランスに行った事があり、その時にフランス革命時の主要なスポットを訪れ興味

を惹かれ、前々から勉強したいと思っていた為。

－内容

フランス革命の歴史を学習するだけでなく、その当時の社会背景、さらに「どうしてフランス革命がおこったのか」、そして「今にどのように影響しているか」をが学習する。

－追記

歴史系はとにかく読み物が多い。毎回の授業に向けて読んで行かなければいけない量が他の教科と比べると多く、さらに読んで行かないと授業内容もちんぷんかんぷんだったりする。

Religious Studies / Death and the Afterlife in Asian Religions

－履修経緯

外国から見たアジアの宗教、またそれに伴うアジアの文化はどのように思われているのが純粋に気になった。さらに知ってるようで知らない日本の仏教観念についても学習したかった。

－内容

Classic / Greece and Rome, the Foundation of Western Civilization1

－履修経過

古代ギリシャ・ローマの歴史はよく映画の題材にもされているし、絶対面白いだろうというミーハーな理由から。

－内容

実際は歴史を辿るというよりも、当時の文化や文学（ギリシャ神話など）、そして市民社会（お風呂の話やオリンピック、ゲイの話まで…）に重点を置いた講義で、予想をいい意味で裏切り非常に面白かった。

◆ 授業、レポート、定期試験

English / Introduction to Principles of Literary Analysis

- ・週2回の講義スタイル
- ・授業でのグループディスカッション 6回程。授業最終日に同じグループのメンバー同士で互いの点数を付け合う。
- ・小レポート 5回
- ・エッセイ 1回
- ・ロングエッセイ 1回
- ・In class test 1回
- ・定期試験

レポートも試験も、主にこれまでやってきた本の読解を問うもの。あとは文章構成についての解説を要求される。

Canadian Studies / An Introduction to Canadian Culture

- ・週1回の講義、1回の小クラス
- ・提出課題 12回
- ・中間テスト
- ・プレゼンテーション 1回（授業の前に、その日にやる事について発表する）

- ・ ロングエッセイ 1 回 (自分で「カナダを象徴するもの」を選び、それについて二つの視点で論述する。)
- ・ 期末テスト

History / France In The Age Of Revolution

- ・ 週 2 回の講義、2 週間に 1 回の小クラス
- ・ ロングエッセイ
- ・ 中間テスト
- ・ 期末テスト

Religious Studies / Death and the Afterlife in Asian Religions

- ・ 週二回の講義スタイル
- ・ 小レポート 10 回
- ・ 中間テスト 2 回
- ・ 期末テスト

Classic / Greece and Rome, the Foundation of Western Civilization

- ・ 週三回の講義スタイル
- ・ エッセイ 二回
- ・ 中間テスト
- ・ 期末テスト

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブには属していませんでした。よく大学主催であちこちでイベントが開催されていたので、それに参加したくらいです。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイは大学が事前に決めたところに行きました。カナダ人夫妻の家で、食事内容・学校までの距離等に問題はありませんでした。

寮は第一に志望していた所へは行けなかったものの、私が所属した Windsor は部屋も広くて個人的には気に入っていました。どこの寮もそうだと思いますが、試験期間を除いて部屋でパーティーを開いて騒いでる生徒が多く、とてもにぎやかでした。Windsor の特徴としては、食堂に近く、特に 11 月 12 月の寒さが厳しくなってくる時期にはとても便利でした。人が多すぎて、寮生一人一人と仲良くなるのは困難だと思います。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇に限らず、語学研修期間中は周辺をあちこち旅行していました。もちろん勉強もちゃんとやっつての上ですが… (笑) なかでも印象に残っているのが、クラスの友人の韓国人 3 人とブラジル人 1 人、そして私の計 5 人でフレンチカナダに行ったことです。フレンチカナダの街もとても魅力的でしたが、なにより外人と旅行するのは初めてだったので、とても貴重な体験ができました。

あとは、もともとミュージカルが大好きだったので、トロントから近いニューヨークには二回ほど遊びに行きました。往復バスでも一万ちょっとで行けるんですよ。これは行かないと損です! 自称「ミュージカル漬けの旅」と名付け、恐らく全部で 8 作以上はニューヨ

ークで観たと思います。

そして、大学に移るちょっと前にフロリダへも行きました。ユニバーサル・スタジオに行ったり、NASA（国際宇宙ステーション）へ行ったりしました。さらにお目当てだった最後のスペースシャトル「アトランティス号」の打ち上げを海の上でボートに乗ったまま観る事も出来、とても感動しました。

勉強も大変だとは思いますが、せつかく海外にいるのだから、あちこち行って色んな体験をして欲しいなあと思います。

⑧ 留学期間中の就職活動の取り組みについて

大学の勉強で一杯一杯だったこともあり、全くしていませんでした。唯一やったことと言えば同じ時期に就職活動をする友人からちょこちょこ情報を貰ったりした程度でした。帰国が12月末だったので、エントリーも間に合うかな？と結構楽観視していました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

語学学校で、色んな国の友人が出来たことが凄く嬉しかったです。これまでちゃんとした知識も無くイメージだけで決め付けていたのが、その国の人と実際に話し友人になり、深く付き合うことによって、これまで見えなかった本当のその国の姿や、人々の魅力が分かったように思います。とにかくお喋りで天真爛漫なサウジの子達、ノリが良く酒好きが多い明るい韓国人、大らかで踊り好きの陽気なブラジル人、こんな色んな国の個性豊かな友人が出来た事はとても貴重な経験でした。

さらに大学で出会った子達とは、毎日(それこそ朝起きてから寝るまで)ずっと生活を共にし、たった半年しか一緒にいなかったにも関わらず自分にとってかけがいのない友達になりました。今でも、毎日みんなで食堂でわいわい騒いで食事したり、誰かの部屋で固まって勉強会をしたり、たまにパーティーをしたり、その一つ一つの思い出が凄く懐かしく恋しく感じます。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

今ではもうネタになっているのですが、パソコンを盗まれた事がありました。保険は利いたものの、やはり日本と違って油断出来ないなあと思い知らされました。その経験はなかなか辛かったですね。

苦労したことは大学の勉強で、当たり前ですが母国ではない分全てが他の生徒の倍近く時間がかかり、カナダ人の生徒が余裕で遊んでいる横で必死になって勉強している留学生メンバーの光景が印象的でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本と違って、本当に色んな民族が一緒に生活をしていることにとても驚きました。さらにそれに対して、カナダの人々はとてもウェルカムで、違う国の人に対しても好意的に接してくれたのがとても印象に残っています。あとはゲイがびっくりするくらい多かったのが一番の衝撃でした。生まれて初めてあんなにたくさんのゲイの友人が出来ました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

教授の方々がとてもフレンドリーかつ授業に対して熱心で、いつも口癖のように「質問があればいつでもオフィスにおいで」と学生達に言うておられたのが印象的でした。実際、私も何度か授業の質問でオフィスに行った事があり、毎回快く話を聞いてアドバイスをしてくださりました。留学生への理解も深い教授も多く、授業後に「大丈夫？着いていける？」と何度も気にかけてくださりました。教授と授業の質は本当に高く、そこが良かった点だと思います。あとは、新入生オリエンテーションを上級生の先輩方が盛り上げてくれてる雰囲気がとても良いなあと感じました。

悪い点は学食のメニューが、だんだんワンパターンになったり手抜きになってきたことくらいですね。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは無いと向こうでは大変だと思います。後は日本食（意外と後から重宝したのはふりかけでした）、日本のお土産（仲良くなった子にあげる用。キーホルダーとか）、化粧水なんかは役に立ちました。こっちの化粧水は使用后肌がひりひりします。

③ 語学力の向上等、留学の成果

全体的に向上すると思います。語学学校にいる間は話す機会がたくさんあり、スピーキング力がとても伸びます。大学に移ってからは沢山の課題をこなさないといけないので、必然的に英語を読むスピードが上がったり語彙力がついたり、あとはリスニング力も強化されると思います。大学では話すよりも、勉強に時間が取られるので、話す機会は減ってしまったように思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

行く前は不安なことだらけかもしれませんが、まさに「住めば都」、一回生活が始まるときっとみんなが留学先の国のことを好きになると思います。語学勉強だけにこだわらず、色々な場所へ行って、色々な人々と出会い、日本では味わえない経験をたくさんして人間としての幅を広げて欲しいなあと感じます。

IV. 写真

フレンチカナダ旅行の時の写真です。この時はみんなでモントリオール名物 Smoked meat という料理を食べていました。韓国人の友人の一人が寝坊でバスを乗り過ぎて一日遅れて合流したり、ブラジル人の子が二日酔いでダウンしたり、よく誰かが迷子になったりと、全員揃ってちゃんと観光したのは最後の方だけという踏んだり蹴ったりの旅行でした(笑)



大学にて、MTA で出来た友人達が、同女メンバーの為に別れ会を開いてくれた時の写真です。この時は既に試験期間中で、勉強が大変な中わざわざみんな集まってくれました。



Y. O. 社会システム学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定したのが11月上旬で、それから春休みに入るまでは普段通り学校とアルバイトの日々でした。語学勉強は TOEFL 問題集で単語を中心にやり、あとは今までやったことを見直す程度でした。学校では私は CASE の授業をとっていたので家での課題を増やさないように毎回の授業を大切にするようにしていました。ビザ申請は確か1月2月に締め切りのものが多かった気がします、集める書類や銀行手続きなど事務的な処理が多く意外と手間がかかりました。早いうちからやった方が安心だと思います。

② 現地到着後

私は出発日が震災の翌日ということもあり、とてもばたばたしました。でも3時間遅れくらいで飛行機が出たのでまだ良かったですが、ほぼ全てのフライトが乱れていて到着後も空港は大混雑でした。入国審査だけで2時間以上待ち、本当に疲れました。しばらくしてやっと送迎係りの人と会うことができ、同じ語学学校の2人の他の生徒と車によってホームステイ先まで送ってもらいました。確か空港から40分くらいでした。オリエンテーションは到着2日後にあり、校舎の案内とレベルチェックテストをしました。

③ 語学研修期間 (ESL, Academic Skills Study)

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学学校はバンクーバーのダウンタウンの中心地に2つの校舎があり、駅からも近く交通も便利でした。2つともビルの中の1フロアでしたが、中には複数の教室、ラウンジ、パソコンルームがありました。1クラス10数人~20人前後で使う教室なので大きくはないですがクラスもその程度なので基本的には不自由は感じませんでした、クラス替えなどで生徒数が急に増える時は長机に詰めて座るために窮屈なこともありました。バンクーバー校舎は同じビルにスターバックスや日本食レストラン、イタリアンレストランなどがあり、転倒販売もしているためお昼を買うのには困りませんでした。昼休みは40分程度だったので外に出ると食べる時間があまりないです。

◆ 授業内容、課題、試験

大学に行くために必須になっている University Foundation Certificate は IELTS コースと大学講義形式のコースと2つに区切られており、私は初めに IELTS コースで次に講義のコースでした。IELTS コースでは IELTS テストの得点アップを目標としていて内容は TOEFL のようにアカデミックです。私はそれまで IELTS をよく知らなかったのですが、多くの大学が TOEFL と同じように大学入学に必要な英語力をみるために IELTS を使っています。ペーパーベースという点が違うところだと思います。1日90分×3の授業で、reading, writing, speaking, listening を2つずつくらいで循環しました。例えば今日は reading と writing で次の日は残り2つというように。そして2週間に1度、授業内でチェックテストがありました。これは各回1技能ずつで、IELTS 形式の問題でした。課題は特に reading と writing が多かったです。一般英語コースと比べて UFC は課題が多く、その中でも IELTS の方がやることがありました。講義形式の授業では大学の lecture を VTR

でみて listening 力を上げたり、それに基づいてクラス内で discussion をしたりしました。それから終りの方でリサーチに基づいたエッセイや身近なトピックでプレゼンテーションもしました。

④ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

MTA には図書館、ジム、カフェやバーなどの施設がありました。カフェは student card で支払いが出来たし、ジムも行き来が自由で好きな時に利用出来る点が良かったです。図書館は普段は 11 時前に閉館ですが試験前は夜中の 2 時前くらいまで開いていました。勉強場所として、図書館やカフェは常に利用していました。施設はどこもきれいでよかったです。それから music department の建物の中のピアノが空いている時は勉強の息抜きにたまに弾いたりもしていました。

◆ 履修科目

授業登録は 7 月上旬だったので語学学校にいる頃に Web でシラバスを見たりして考えました。ただ、留学生の登録が一般の学生よりも遅いために人気の授業はすでに埋まっていることがありました。その場合 Waitlist に登録して空きを待つのですが、だめな場合を想定して多い目に登録することをお勧めします。それから授業規模はたいいてい 1 年生用の科目や introduction は大規模で上学年用の授業になるにつれ小規模になっています。なので、授業内容だけでなく規模なども考慮して予定を考えましたが、決定まで結構迷いました。私が履修したのは以下 4 つの科目です。

☆ Introduction to Psychology II

Social psychology, Intelligence, Personality などさまざまなトピック全 12 チャプターを学びました。幅広い項目をカバーしているので試験勉強は量が多くて大変でしたがその分多くのことに触れられます。

☆ Music

Listening を軸に音楽の構成要素、タイプ (classic, jazz, opera, musical など)、楽器について勉強しました。他の授業と比べ reading 課題など少なく、リラックスして楽しめました。そして後半、「楽器」について学んだ時には music major の学生が楽器を持って紹介と簡単な演奏をしに来てくれ、授業中に生の音楽に触れられたことがとても良かったです。

☆ Canadian Studies

80 分×週 2 回の授業ではレクチャーとチュートリアル (ゼミ形式) の組み合わせでした。カナダの文化について、歴史や民族、言語、芸術、音楽などの視点から学び、理解を深めるものでした。文化をさまざまな視点から学べる点で興味深かったです。

☆ The Making Of Modern Asia

アジア地域の歴史を、西洋と比較しながら学びました。比較的小規模で意欲的な生徒が多く、意見がよく飛び交っていました。歴史の授業なので日々の reading 量とレポート課題が多く、一番大変でした。でも内容はとてもおもしろかったので、なんとかできました。また教授はとても厳しい人でしたが、日本に留学していたこともあり、歴史にはかなり詳しくかったです。

◆ 授業、レポート、定期試験

どの授業も月水金は 1 コマ 50 分、火木は 80 分でした。ほとんどの授業で教授はスライドを使っていて、そのスライドや話の重要な部分を拾ってノートをとるという感じでした。レポートも科目によってさまざまですが、300 字くらいの授業の復習レポートから一番多くて試験評価同様の 2500 字のエッセイがありました。でも全体で 800 字~1000 字のレポートが一番多かったです。定期試験は中間と期末の 2 回で各科目 2 時間~3 時間で、筆記、選択マーク、2 つの混合がありました。あと、1 年次の留学生は事前に申請をすれば試験時間を延長出来ます。この場合、日程は同じで別室受験でした。私はいくつかの科目でこれを利用しました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

留学生が集まって文化交流のイベントを開催するようなクラブに何度か参加しましたが頻繁に行くことができなかったので直接運営や企画に携わったりはしていませんし、ほぼ、イベントに行く感じでした。

それから日本のアニメが大好きなルームメイトに誘われて Japanese Culture Club に何度か行った程度で、所属らしいことはしていませんでした。

⑥ 現地での住まいについて

語学研修期間はホームステイをしました。事前にアンケートに記入をして、それに基づいて学校側が紹介してくれました。私の他にブラジル人の子がいましたがそれぞれに 1 ルーム与えられ、十分な広さでした。家族は上の階、私たちは下の階で生活し、バスルームなども下にありました。食事だけは上に上がってみんなでとるという感じでした。食事は朝晩の 2 食付きで、昼食は自分で買って食べました。朝はセルフで食パンやシリアルといふかなりシンプルなもので夜はチキンやパスタ、カレーなどでとても美味しかったです。食事に関して若干不安だったのでアンケートに「バランスのよい食事」と書きましたが、それが反映されたかは分かりませんが食事に困ることはありませんでした。家から学校までは、最寄り駅まで徒歩 15 分弱、それから電車で 15 分、駅から学校までは徒歩ですぐの、合計 30~40 分見ておけば十分の距離で、幸い便利なところでした。寮の申し込みも授業登録と同じ頃だったのですがこれに関しても Web ページでそれぞれの寮を比べて考えました。でも実際 Web を見ただけでは良く分からず、最終的にどれも同じように見えてしまうくらいだったのですごく迷って第 3 志望まで絞ったのにどれも通りませんでした；後から聞いたところ、寮も人気の偏りや人数制限があるのでなかなか希望が通るのは難しいようです。とくに留学生ということもあるらしく。結局学内で最大規模の寮になりましたが、おそらく済んでしまえば同じです！それに部屋は他と比べたら広かったです。各フロアごと男女別にトイレとシャワーがそれぞれ 3 つずつありました。カナダなので暖房設備は整っており、部屋の中は温かかったです。食事は 3 食とも食堂でとります。バイキング形式で、日本で想像していたよりも種類は豊富でした。スイーツや自分でつくるアイスクリームなどもあって最初はすごく感動しましたが毎日なので飽きてしまう&食べ過ぎに注意しないと体が重くなります。授業ごと校舎の移動がありましたが小さい大学だけあって移動距離はしれています。

⑦ 長期休暇の過ごし方

語学研修のUFCプログラムが終了後、私は2週間延長して一般英語の授業を履修しました。それも終わった後は旅行しました。

⑧ 留学期間中の就職活動の取り組み

特に何もしませんでした。ただ就職活動の時期になると少し日本での動きが気になった時があったので友人と連絡を取る時には話を聞いたりしましたが、その程度です。授業に忙しく、余裕もありませんでしたし、留学しているのだから目の前のことに集中しようと思っていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことはさまざまな人と出会って、いろいろな話ができることです。些細な会話でも新しい発見があったり、温かさを感じたりしました。文化や価値観の違いに触れられる機会は本当に貴重だったと思います。また、旅行を通してカナディアンロッキーの壮大な自然や、ナイアガラの滝の迫力、ヨーロッパの風潮をもつケベックの街並みなど、それぞれの地域の特徴を見れたのもとても良かったです。毎日学校に通った日々も友人とレストランで食事をした時間も、ホストファミリーとの会話も、本当に全てが思い出です！！

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

語学研修が始まってすぐの頃は、英語が話せないし環境にもまだ慣れずで焦りや劣等感を感じてしまうことがありました。慣れないと積極的にもなれなくて会話にいちいち緊張したり気を使ったりというのがありました。特に初めのクラスではほとんどの他の生徒がすでに何か月か同じクラスで学んでいたの、途中から入る緊張感が続きました。大学に入ってからやはり勉強の量が多いのとどうしても時間がかかってしまうのと、友人の遊びの誘いを断って勉強に向き合えないといけなかったことや、睡眠時間を削ることが体力的にもしんどかったです。勉強に多くの時間を費やしてもなかなか結果に出ない時はつらかったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

良くも悪くもカナダ人は自由だなと思いました。皆やりたいことを自由にやっている感じはのびのびしていていいなと思いました。同時にもう少し他人に配慮すべきだと思うことも多々ありました。例えば私の隣の部屋の方はパーティーミュージックをものすごい大音量でかけていて、とても部屋にはいれませんでした。私はノリの良い音楽は好きですが、爆音と長時間には耐えられませんでした。さすがに私たち以外からも苦情があったようですが、結局その時だけでした。それから掃除をしないことと、トイレの使い方の悪さ、食べ散らかしの多さには驚きました。日本人はきれい好きだと言われるのが良く分かりました；(笑)

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

MTAの良かった点は上記I-④で述べたようにカフェやジムなどの施設が充実していたこと

と、小さい大学であることです。大規模な大学の良さはまた別にあると思いますが全体的にまとまっている感じがしました。それから町全体見ても約半数が MTA の学生というくらいなので本当に田舎ですがなんとなく住民が和気あいあいとした感じがして好きでした。例えば毎週土曜には、住民が手作りのクッキーや料理を販売するマーケットがあり、賑わっていました。一方で、学校を出ても特に行くところがないというのがあり、気分転換にショッピングをしたいとかいうこともすぐにはできませんでした。ある程度規模の大きいショッピングモールまでは (Moncton) バスとタクシーを使って 1 時間ちょっとかかりましたし、バスも週 2 回で本数も限られていたために、思いついてすぐに行くことはできませんでした。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必需品でした。寮や授業登録などの事務的な手続きから授業に関する知らせなど全て Web やメールで行うため、手元にないとかかなり不便だと思います。それから大学では授業ノートパソコンでとったり、レポートはもちろん全てタイプするのでほとんどパソコンを使っていた気がします。パソコンを持ち歩かない時には図書館で使うことができますが日本から持っていかないのはきついかと思います。他には基本的な薬類、体温計、化粧品類 (こだわりがなければ現地で調達できますが)、下着類、インスタントの味噌汁などは持って行って良かったと思います。大学に入って食堂の食事に飽きてくると日本食がすごく恋しくなり、味噌汁が大活躍でした。(笑)

③ 語学力の向上等、留学の成果

毎日英語を耳にして、話さないといけない環境があるので、すぐには実感できませんでした。時間が共に実感できる時がありました。特に listening が一番伸びを感じられました。語学研修中よりも大学に入ってからの方が向上できたかなと思います。時間経過もそうですが、講義を毎日聞いて、そしてその課題がやはり大きいかなと思います。留学中に TOEIC を受けましたが、前回結果 (といっても留学直前ではなく結構前です) と比べて思ったよりも上がっていました。現地にいるあいだに受けた方が効果的なのかなと思うので、もし興味と機会があれば受けてみると思います。あとは会話です。TOEFL などでもアカデミックな文章を読んだり書いたりしますが、そこでは得られない日常の会話力が向上出来たと思います。話し言葉独特の表現などは実際に話している場面でないとなかなか得られない、1 つの醍醐味だと思います。簡単なようで、いろいろな表現があって意外と難しいですが、おもしろいです!

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は今これを書いてもう一年たったのか、行って帰ってきたのかと不思議な気持ちですが振り返るととても懐かしく思います。もしも留学しようか迷っているのであれば、ぜひ挑戦してほしいです! 私もそうであったようにまず TOEFL の基準点をクリアしないといけないし、不安なこともあるし、迷ったりなかなか勇気が出ないかもしれません。でも留学して後悔は絶対にしません! 私は TOEFL を留学を意識するまでは受けたことはありませんでしたし、英語が好きで CASE を受けていたくらいで強く自信があったわけでは全然ありません。でも留学したいという気持ち一心で、2 年になって講座を受けたりして徐々に勉強に励みました。結果もぎりぎりだったので直前は焦りましたがやれるだけやってそ

れでだめなら悔しいけど仕方ないといった気持でした。留学決定までの道や留学後の生活で、辛いことや厳しいこともそこでしか経験できないことで、それを乗り越えて得られるものが必ずあります。そして困難なことも、全てなんとかなりました！やる前はいろいろ不安でも実際になるとなんとかなってしまうし、時間も解決してくれます。そして周りには助けてくれる人がいます。私も旅行中に一人でいてこれはマズイ！と困った時も見知らぬ人が助けてくれたりしました。感謝です。なので、少し勇気をだして挑戦してみるといいと思います。困難なこと以前に、まず楽しいことがたくさんあります！様々な人との出会いや異国の地でのいつもと違った風景など、素敵な場面がたくさんあると思います。私でも出来たので大丈夫です！留学という貴重な経験を有意義に、いっぱい楽しんでください！

IV. 写真



ホームステイ終了間際に、食事に連れて行ってもらいました。レストランの前にて☆
右から Rackel, Sophia, Amelia



9 月の 3 週目、大学のある町 Sackville で行われたパレードにて。スコットランドで有名なバグパイプを演奏する方と一緒に☆そして右から日本のアニメと J-POP 大好きな Elyse とルームメイト Jennifer

☆最後に、留学準備から最後まで、一番身近でサポートしてくださった高橋さん、福田さんをはじめとする国際交流センターの方々、MTA 担当の中島さん、本当にありがとうございます

いました。

A. M. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

11月の月上旬に留学が決定しました。それからは英語の勉強、ビザの申請、カナダでの生活に必要なものの準備をしていました。

・英語の勉強

語学学校の入学手続きが終わると、オンラインでの授業が受けられるようになったため、時間があるときは利用していました。私は英文学科なので特別に英語の自習をしていませんでした。しかし、余裕があればこの時期に自分の苦手な分野に取り組んでおくと、留学後の学習もスムーズになると思います。私はスピーキングが苦手なまま留学に行ったので、伸びるまで時間がかかりました。

・ビザの申請

ビザの申請には1カ月程の時間がかかります。その上、ビザを申請する書類（資金証明・留学の理由のレポート・履歴書など）の作成にも時間がかかったので、早めに準備をすることをお勧めします。特に銀行で発行してもらう資金証明は日数がかかるため、早めに申し込みましょう。

・生活用品の準備

私は留学をもって初めて海外にいったので、準備するものが沢山ありました。主にスーツケース、変圧器、変換プラグ、クレジットカード、航空券などです。スーツケースは大容量で軽いものを探しました。航空会社によって許容の大きさが異なるため、調べてから購入した方が良いと思います。変圧器と変換プラグは持って行きましたが一度も使いませんでした。ほとんどの場所で日本の電化製品がそのまま使えますが心配であれば持っていてもいいと思います。クレジットカードはあるととても便利です。私はマイルを貯めるためにANAカードを作りました。航空券は一年間利用日の変更が可能なオープンチケットを購入しました。私はHISで購入し、福岡⇄成田、成田⇄バンクーバーの往復で合計16万円くらいでした。

② 現地到着後

・空港からの移動手段

空港からは語学学校で申し込んだピックアップサービスを利用しました。空港の出口のゲート付近で自分の名前が書いてある紙を持ったおばさんが立っていて、親切にホームステイ先まで送って下さいました。異国の地で不安だった時に優しく迎えて下さったのでとても救われました。公共交通機関を利用するか、タクシーを利用すればかなり安く済みますが、ピックアップサービスの方が精神的には安心できます。空港からホームステイ先までは40分くらいかかりました。公共交通機関を利用するともう少しかかると思います。

・オリエンテーション

私は震災の影響で語学学校のオリエンテーションの日に到着しなかったため、受けていません。私は初日にクラス分けのレベルチェックテストを受けました。このテストで7段階のクラスのどこかに振り分けられますが、私は受講するクラスが決まっていたのであまり

関係なかったように感じます。その後はスタッフの方が詳しく学校について説明して下さいました。私の場合は特殊でしたが、普段のオリエンテーションの日にはレベルチェックの後に学校のスタッフが周辺を案内しているようです。

・その他の手続き

語学学校の初日に入学手続きのようなものをしました。パスポート、同志社女子大学で加入した海外保険、ホストファミリーの住所が必要だったので当日は準備しておいて下さい。

③ 語学研修期間 (ESL, Academic Skills Study)

◆ 語学研修先の施設・環境について

MTA に留学する場合、語学学校はバンクーバーとトロントから選べるのですが、私は自然と都会の両方を持ち合わせたバンクーバーに魅力を感じ、バンクーバーを選びました。また、大学のある東海岸だけでなく、西海岸の両方を体験したかったのも理由のひとつです。私は語学研修期間中、大学準備コースと一般の ESL を受講しました。どちらの環境も 1 クラス 10 ~ 15 人くらいで多国籍な環境でした。国籍の比率は韓国人とサウジアラビア人とブラジル人が少し多かったと思います。教室では円形に机を並べ、大学の講義とは異なって皆が授業に参加しやすい環境です。また、学校はバンクーバーの中でも栄えていて治安のいい場所です。放課後は観光やショッピングも楽しめて気分転換もできる環境でした。

◆ 授業内容、課題、試験

【大学準備クラス】

このクラスは前期・後期に分かれていて、それぞれ 8 週間あります。前期では IELTS の対策クラスが 2 コマとライティングが 1 コマで、一日 3 コマの授業を受けました。IELTS のクラスは月曜日にリーディング、火曜日にリスニング、水曜日にスピーキング、木曜日にライティング、金曜日にいずれかのテストという構成でまんべんなく英語のスキルを向上できます。内容はすべて IELTS の過去問でとてもハードでしたが、8 週全ての授業を終えたころには自分でも実感する程英語力がつきました。後期の授業では大学の授業を意識した内容になります。授業にプレゼン、模擬授業のノートテイキング、ディスカッション、レポートが組み込まれます。課題はプレゼンを 2 回、1000 字のレポートを 1 回のみで少なかったのですが、その分時間をかけないと難しいものでした。試験はどちらの学期にもありませんでしたが、1000 字レポートを大学準備コースの主任の先生が採点し、それに合格すれば大学準備コースを修了するという仕組みでした。

【ESL】

私は大学準備クラスが終わり、夏休みに入っても勉強がしたかったので ESL コースを受講しました。ESL ではリーディング、リスニング&スピーキング、ライティング、グラマーのクラスから好きなものを選べます。私はリスニング&スピーキング、ライティング、グラマーの授業を取りました。大学準備クラスとは違って内容も少し簡単にはなりますが、アカデミックではなく、映画や音楽など身近な内容で楽しく勉強ができました。

④ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

とても田舎でゆったりとした環境です。街には大学とレストランが数軒、ドラッグストアが 2 軒、スーパーと郵便局が一軒ずつあるのみでした。遊ばずに勉強に集中できるという

面では良い環境でしたが、少し洋服や雑貨を買い足すだけの用事のために車で40分のモントクトンまで行かなければならなかったのは不便でした。

◆ 履修科目

履修登録は7月にインターネットで行いました。MTAの生徒用のIDとパスワードが発行され、生徒専用のページで登録を行います。また、2年生以上の授業は教授の許可が必要な場合があります。その場合は大学の留学生オフィスに問い合わせるか担当の教授に問い合わせる履修許可をもらいます。私が取った授業は以下の4つです。

【Introductory Music】

楽器や音楽のジャンル、音楽用語について学び、それを基盤に音楽を分析する授業です。

【Introduction to Canadian Culture】

カナダの歴史や文化、先住民族について学ぶ授業です。

【Culture and Communication】

人のコミュニケーション方法について、民族的な文化の側面から研究する授業です。

【Introduction to World Art】

古代～中世までの芸術作品について学ぶ授業です。

◆ 授業、レポート、定期試験

【Introductory Music】

40～50人くらいのクラスで、45分×週に3回の授業です。評価方法はレポートと3回のテストでした。先生は女性でとても優しく、授業内容も分かりやすかったです。レポートは指定された楽曲を聴き、その感想や分析を書くものでした。これが6回分ありますが、きちんとこなせば試験勉強にもつながります。テストは1カ月に1度あり、先生が指定した課題をこなせば問題のない内容でした。学期末にコンサートレビューといって、コンサートに行ってその感想を書く課題もありました。授業は楽器、CD、DVDなどの教材を用いたため楽しかったです。音楽に興味のある方にはお勧めの授業です。

【Introduction to Canadian Culture】

80分×週2の授業です。片方は100人以上の講義形式で、もう一方はクラス20人程度のチュートリアルクラスです。レポート、毎週のペーパー、プレゼン、2回の試験で評価されます。火曜日の講義内容を木曜日のチュートリアルにて、ディスカッションやプレゼンを通して理解を深めるスタイルです。しかし、この授業はとにかく課題が多く、苦痛な授業でした。チュートリアル毎にペーパーの提出があり、レポートは2000～3000字と長いもので余裕を持ってませんでした。また、ディスカッションは皆積極的に発言するため、ついていくのに必死でした。試験は2回ですが、歴史上の事件や人物を覚えるだけでなく、それを他の事件と関連付けた定義を述べたり、エッセイを書く形式で手ごわいものでした。

【Culture and Communication】

2年生向けの授業で、内容も難しい授業でした。生徒数は30人くらいで45分×週3回のクラスでした。Culture and Communicationという名前から、大学で専攻している応用言語学に近い分野だと思って取りました。しかし、どちらかというと民俗学に近い内容でした。評価は3回のレポート、ペーパー、グループでのプレゼン、2回のテストで評価されます。試験は授業を復習すれば大丈夫ですが、課題は授業で取り扱わない教科書を使うの

でとても大変でした。そしてリーディングの量も多く、自習に時間を取られます。担当の先生は、この授業を落とすことはほとんどないとおっしゃっていましたが、それも信じられないくらい大変で苦痛の授業でした。

【Introduction to World Art】

120人くらいのクラスで、週2回の講義形式です。評価方法はレポートまたは美術作品を作ることと、2回の試験でした。授業自体は楽しいのですが先生が非常に厳しく、留学生だからといって容赦を絶対にしませんでした。試験は美術作品の写真を見て、それが作られた年や作者を答え、エッセイを書くという歴史のテストに似ていました。しかし問題が5題しかない割には範囲が非常に広く、苦渋しました。学期末にレポート又は自作の美術作品を授業内で発表するのですが、私はレポートを選びました。私は歴史が苦手だったので試験で点数を取れず、単位を落としてしまいました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

語学学校では放課後に学校主催のイベントがほぼ毎日あります。希望者は有料でBBQ、サッカー観戦やクラブイベントに参加できます。お金がかかるため私はあまり参加していませんでした。大学ではオーケストラ部とJapan Cultureに所属していました。オーケストラ部は週に2回の練習で、学内での演奏活動もありました。しかし、練習がハードで両立が困難であったため私は早い時期に辞めました。Japan Cultureでは日本料理を振舞う、カラオケ大会、コスプレ大会という内容でした。私は日本のアイドルやアニメに詳しくあったため、カラオケ大会で歌って踊るなど積極的に参加しました。すると周りから興味を持たれ、友達がたくさん増えたきっかけとなりました。

⑥ 現地での住まいについて

・語学研修期間

ESLにいる間は2軒のホームステイ先にお世話になりました。一軒目はクロアチアからの移民家族で、ホストのご夫婦と2人の子どもと一緒に生活しました。ここでは2階に家族が住んでいて、1回に生徒用の部屋・バスルーム・食事をするダイニングがありました。食事はホストファミリーと一緒にではなく、ホストマザーがダイニングに夕食を持ってきて好きな時に温めて食べるという形式でした。そのため、ホストファミリーと接する時間も少なかったです。食事は基本的に簡素で、豆料理・肉料理・パスタが多かったです。朝食用にはパンが用意されていたのですが、カビが生えていることもしばしばあったので自分で買うことが多かったです。通学時間はバスと電車を使って40分程でした。バスの時間が20～30分に一本だったので不便でした。2軒目はカナダ人のホストファミリー、中国系カナダ人のホストマザーと子ども2人の家族でした。一軒目とは正反対で食事は一緒に、内容も中華系が多くて凝っていました。こちらのご家族は、家族での外食や親戚間のBBQに積極的に誘って下さったので寂しい思いをすることも少なかったです。通学にはバスと電車を使って30分程度でした。私の周りの友達の話を知っている限り、前者のような適当なホストファミリーも多く、ホームステイに関しては当たり外れがあると思います。

・正規科目履修期間

大学では寮に住んでいました。MTAの寮は10種類ほどあり、二人部屋の寮と一人部屋の寮がほとんどです。寮の規模も100人以上の所から15人程度の所があります。寮の希

望は6～7月に履修科目を登録する際に出します。私は一人部屋がよかったので Harper、Campbell、Edward を希望しましたが、希望通りではなく Anchorage になりました。他の同志社女子大学からの留学生も希望通りではなかったようなので、期待はしない方が上策です。Anchorage には20人ほどが住んでいて、2人部屋とはいえ静かで勉強しやすかったです。週末はどの寮も飲み会で騒がしいと聞いていましたが、Anchorage は全くそのようなことはありませんでした。また、住んでいる人数が少ないので寮の皆と仲良くなれます。ルームメイトは一年生で寮長を務めるといっても真面目な子でした。同じオーケストラ部に所属していて趣味も似ていたの親しみやすかったです。私は夜型人間でルームメイトは朝型だったので、私が夜勉強していると申し訳なく思うことがよくありましたが、気にせずにくれたのでストレスなく過ごせました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

語学学校終了から大学が始まるまで2カ月近くあるのですが、私は勉強をしたかったので ESL を延長しました。6週間ほど延長したので休みは二週間ほどでした。私は家に引きこもるのが嫌だったので、学校に行っている友人が授業を終えるのを待ち、その後にスターバックスや図書館で一緒に勉強していました。また、長期休暇中に Canada Tours 主催のロッキー山脈へ旅行しました。400～500ドルという安い価格で行けるのですが、一日のほとんどがバス移動でした。観光ガイドに載っているルイーズ湖、マ alun 湖やバンフ国立公園を目にした時は、日本にはない雄大な景色に感動しました。旅行以外にも、日本人や日本に興味のある人が集まる団体が主催しているボランティアに参加しました。私は7月に行われた日本のお祭りのお手伝いのボランティアをしました。

⑧ 留学期間中の就職活動の取り組み

語学学校で知り合った日本人の友人の紹介で、11月にボストンでのキャリアフォーラムに参加しました。ちょうど大学が4連休だったので差し支えなく参加できました。このキャリアフォーラムは日本人留学生向けに日本の企業や外資系企業がセミナーや会社説明会、面接を行います。会社説明会で興味を持てば、その場でエントリーシートなしで面接を受けることもできます。ご縁があればその面接で内定を頂くこともできるようです。参加した企業も150社以上、しかも様々な業種の大手企業が多いため、自分の進路を考えるきっかけになりました。もしアメリカやカナダ東海岸に留学するのであれば、行く価値は大いにあると思います。また、マイナビやリクナビがオープンした後はそういった就職活動サイトを利用して自己分析を行い、興味のある企業リストを作っていました。私は余裕がなくてできませんでしたが、帰国後の就職活動を円滑にするためにも、自分の強み・興味のある業界の選考スケジュール・その業界に行きたいと思ったきっかけを考え始めると良いと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは色々な国の友達ができ、文化や慣習を学べたことです。移民の国であるカナダは多国籍な環境です。私は留学期間中に韓国人・中国人・台湾人・インドネシア人・マレーシア人・ロシア人・サウジアラビア人・トルコ人・スイス人・フランス人・ドイツ

人・ブラジル人・チリ人・アメリカ人そしてカナダ人の友達ことができました。彼らと付き合っていく中で、宗教的な違いや文化的な違いを沢山発見できて面白かったです。例えば、語学学校のライティングの課題で「死刑制度に賛成か反対か」というお題が出た際に国によって賛否が分かれていました。また、各国で英語になまりやアクセントの違いがあったのも面白い発見でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

私は内気な性格で、スピーキングが苦手だったため友人との会話や授業のディスカッションに入り込めずに苦勞しました。私は人見知りで日本人と話すときでも3人以上になると無口になるほどでした。また、留学前の TOEFL のスピーキングでは3分の1も点数を取れませんでした。それが原因で留学先の語学学校の授業では全く発言ができない、2分間話さなければいけないスピーチでは1分も話せないという悲惨な経験をしました。その上、周りの友達にはスピーキングが得意あるいは積極的な性格だったので余計に取り残された気分でした。ある日のスピーキングの授業で、サウジアラビア人の友人から「なんでこんなに簡単なことができないの?」といわれた時は本当に悔しくてトイレで号泣してしまう程でした。それは授業以外にも友達と外出して英語を話す時間を増やしていくことで話すことにも慣れていきました。しかし、大学の正規授業ではカナダ人の英語のスピードについて行くことに二回目の挫折を味わいました。語学学校にいた時は、英語が母国語でない友人がほとんどであったため、カナダ人の英語のスピードにギャップを感じました。その中でディスカッションやプレゼンに参加するのは大変でした。留学生とはいえ、語学留学ではなく正規の授業を取る交換留学生として MTA に来ていたため、発言ができないとやる気がないと見なされているのではないかと心配になることがありました。そのように見なされるのは嫌であった上自分のためにもならないので、発言ができなくても周りの意見に質問するなどしてディスカッションに取り組んでいました。こういった辛い時に支えになったのがルームメイトと、いつも一緒にいたカナダ人の友人でした。ルームメイトや仲の良い友人が授業の悩みを聞いてくれたり、一緒に勉強に付き合ってくれたため諦めずに頑張ることができました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

カナダでの留学を通して驚いたことは主に2つあります。一つ目は意見をはっきりと主張するのが良いことだと見なされているところです。日本では相手を傷つけないように謙遜しながら自分の意見を述べる、遠まわしに意見を述べることは普通に見受けられます。しかしカナダや他の欧米諸国でははっきり相手に分かりやすく要点を述べるのが重視されるためかえって失礼にあたる場合があります。これは上で述べた通り、授業のディスカッションやプレゼンで実感しましたが、自分の曖昧が原因でストーカー被害に遭うなど日常生活でも実感しました。MTA で同じ授業を取っていたカナダ人に好意を持たれ、私は仲の良い友達として付き合っていたのですが、相手は恋愛感情を抱いていたようでいきなり部屋でデートしようと誘われました。こういった場合は「今日は用事があるから」という曖昧な理由でぼかしてはいけません。私はそうやって断っていたのでしつこく誘いを受けていました。それもだんだんとエスカレートしていき、遭遇すると下心を持って抱きつかれる、髪や体を触ってくる、私が図書館や食堂に行く時間に合わせて待ち伏せされることが

ありました。そういう場合は相手を傷つける覚悟で NO と言わなければ、被害にあっても自分の責任にもなります。とにかく Yes.No がはっきりしていることに価値があるのに驚きました。二つ目は授業がとてもゆったりとリラックスした雰囲気であることです。日本の大学の講義では飲食物の持ち込み禁止の場合がほとんどですが、MTA ではほとんどの授業で朝食や昼食の軽食は持ち込んで飲食許可をしている所がほとんどでした。授業中にコーヒーを飲み、バナナやサンドイッチを食べている人がいる景色には驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

・良かった点

MTA の良いところは、とにかく勉強に集中できる環境であることです。街にはスーパーとレストランと薬局がある程度で遊ぶような環境ではないので、たるむことがないです。大学の授業も先生との距離が近く、授業中でも授業後でも分からない所を質問しやすいです。先生のオフィスアワーに訪ねれば、課題の進め方や授業で不安なところも親身になって相談に乗って下さいます。また、自習環境も整っています。寮ではうるさくて勉強ができない場合は夜の 12 時まで営業していて、ネット環境もある図書館でも勉強ができます。Student Centre にあるラウンジは夜の 12 時以降も空いているので深夜でも勉強できます。

・悪かった点

勉強できるとはいえ田舎すぎるところです。食糧や化粧品などの日常雑貨は手に入りますが、衣料品などは買えません。そのため、私は秋から冬の季節の変わり目に服を少し買い足すためだけに車で 40 分のモンクトンまで行かなければならず、不便でした。バンクーバーではどこにでも見つけられるスターバックスやマクドナルド、サブウェイなどもなく、食べたいものを好きな時に食べられない、欲しいものが必要な時に手に入らないのは不便でした。また、MTA は秋学期になると関西学院大学からの語学留学生が 40 ~ 50 人ほど来ます。私は日本人から興味を持たれたり話しかけられることに苦痛を感じませんでした。もし日本人が全くいない環境が良いと思うのなら MTA は良い環境ではないのかもしれない。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン・ドライヤー・日本の携帯電話・電子辞書・化粧品&生理用ナプキン・洗濯ネット・地球の歩き方・iPod touch・コンタクトレンズはとても役に立ちました。

パソコン…カナダでも手に入りますが、日本語入力の設定などが面倒なので日本で買ったものの方が良いと思います。大学の授業でパソコンを使ってノートを取る、図書館で利用したければ小さくて軽量のものが便利です。Skype を入れておけば無料で国際電話ができて便利です。

ドライヤー…ドラッグストアで売っていますが、到着した日から使うものなので私は持って行きました。電圧が変えられる海外旅行用ドライヤーなども売っていますが、普段使っているマイナスイオンドライヤーも変圧器なしで使えます。

日本の携帯電話…至急家族と連絡を取りたい時に使えます。私の母はパソコンメールが使えないため、携帯の SMS を使って連絡を取っていました。ドコモなら一通 50 円で送受信

ができます。

電子辞書…これはカナダでは手に入りません。持っていると言ったら皆から珍しがられました。どうやら日本と韓国と中国辺りでしか販売されていないようです。

化粧品と生理用ナプキン…使い慣れたものが一番です。私は化粧水・洗顔料・メイク落とし・化粧品は全て日本の物を使っていました。化粧水はカナダではメジャーでなく、クリームで保湿が多いためあまり見かけませんでした。メイク落としはオイルの物が好きなのですが、カナダはクリームタイプばかりでした。化粧品は売っていますが、日本ブランドのものが好きだったため持参しました。カナダの生理用ナプキンは使い心地が悪いため、日本から送ってもらいました。

洗濯ネット…カナダの洗剤は洗浄力が強いので、ネットでの洗濯をお勧めします。

地球の歩き方…観光名所や地図が載っていて旅行の時も日常使いにも便利です。

iPod touch…大学や語学学校では無線インターネットが使えるため、パソコンを携帯せずにネットをするのに便利でした。iPhone や iPad でも便利だと思います。

コンタクトレンズ…半年分持参しました。カナダでは Clear Lens という通販サイトで処方箋なしで購入できます。

③ 語学力の向上等、留学の成果

語学力、精神力の両方が鍛えられました。日本で勉強することと一番大きく異なる点は、英語を話す・聞く量です。私は元々リスニングとスピーキングが苦手であったこともあり、聞きとる力と話す力はかなりつきました。大学ではリーディングの課題が多い時では 20 ページと、かなり多いです。しかしそのおかげで速く読めるようになりましたし、語彙も増えました。ライティングは語学学校でみっちり指導され、2000 字以上のエッセイや論理的な文章が書けるようになりました。留学開始から 4 カ月後にカナダで TOEIC を受験したのですが、留学前より 100 点以上伸びました。また、帰国後の TOEFL のスコアも 30 点程上がりました。精神面では、私は打たれ弱くて受け身な性格でしたが留学を通して少しは改善されたと思います。留学をすると能力的な意味で出来ないことが沢山できます。最初はひとつひとつの失敗をくよくよと気にしていましたが、失敗を繰り返すうちに反省点だけ考えるようになりました。また、留学では受け身な性格でも自分から飛び込んでいかないと前には進めず、成長もできません。語学学校でのスピーキングの授業は特に苦痛で何度も逃げたくなりましたが授業には休まず行きました。この経験から単に積極性だけでなく忍耐力も培うことができたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

・留学するか迷っている方へ

留学することはもちろんですが、留学するという決断にも大きなエネルギーが必要だと思います。就職活動が遅れる、教員免許など資格取得が遅れる、好きな授業が取れなくなる、費用がかかるなどデメリットも沢山あるからです。もし今留学するか迷っているならば、それは間違いではありません。しかし、もし私がアドバイスをすればデメリットがあっても留学することは価値があることを伝えたいです。語学力を向上させるだけでなく、新たな考え方、自分の長所や短所を見つけて自分を見直し、改善する機会になります。それは留学が終わって就職する際にも自己 PR として使えますし、自信につながります。それ

でもデメリットが心配であるならば、それを留学前・留学中・帰国後にどう補っていけば良いのか、両親や頼れる先生、キャリアサポートセンターの方に相談すると良いと思います。

・留学を希望している方へ

もし留学を絶対にしたいと決めているのならば、あとはそこに向かうのみです。行きたい大学の TOEFL の基準点を満たせるように頑張ってください。行きたい大学が決まっていなければ、自分の興味のある国や学習内容、将来したい仕事などを基準に希望する大学を決めて下さい。これは協定留学の面接に役立つだけでなく、留学した時になんでこの大学に来たのだろう？と途方にくれることがなくなる上、将来自分のやりたいことや進路が明確になるきっかけにもなります。目標に向かって頑張ってください。

・留学が決まった方へ

留学をすると得る物も沢山ありますが、出来なくなることも沢山あります。例えば同級生と比べて就職活動で遅れを取る事、そのために必要な資格が留学先では習得しにくいことなどです。それを防ぐために、留学先でできなくなることを見つけ、今からどう対処していくのか解決策を練ってください。また、留学には協定とはいえ多額の費用がかかります。それができるのは精神的にも金銭的にも支えてくれるご家族のおかげです。周りの支援して下さる方への感謝、そして与えられた環境への感謝を忘れずに、留学先でも頑張ってください。

IV. 写真



この写真はMTA Japan Culture クラブのカラオケ大会でアニメソングを踊っている時のものです。犬夜叉や涼宮ハルヒなどの日本の有名なアニメを知っているカナダ人もいて、それをきっかけに仲良くなることもありました。



ルームメイトと大学でのパーティーが終わった時に撮った写真です。12月に大学全体でクリスマスを祝うパーティーがあり、皆フォーマルドレスを着ます。フォーマルパーティーでドレスを着る、ハロウィンで仮装をすることは日本の大学では体験できないことであり、貴重な体験でした。

Y. T. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

11月に留学が決定してからも、まずは2月前半までは期末試験とレポートに追われていました。年末にはビザの申請を済ませ、カナダについて色々調べてみたりしていました。試験後は、塾講師のアルバイトを続けつつ、資格支援講座の TOEIC の授業、テストを受けたり、所属している吹奏楽団の定期演奏会に向けて毎週末は練習したりと、忙しい日々を送っていました。実は出発の2日前まで韓国に旅行に行っていました(笑) トランクの荷物を入れ替えるだけだと思っていたのですが実際足りないものが色々あって、先日にとっても焦りました。準備は早いうちに！私はしなかったですけど先に荷物をホームステイ先に送っておくのも、荷物を減らす一つの手です。

② 現地到着後

空港からは出迎えサービスを申し込んでいたので語学学校が派遣した人が迎えに来てくれていました。到着日が土曜日だったので、日曜日は時差ぼけを治すためにもしっかり休んでいました。迷わないように、語学学校への行き方をホームステイファミリーに聞いてくのもいいと思います。私はホストマザーが「明日連れて行ってあげるから大丈夫よ」とめんどくさがられ、結局翌日ホストマザーが寝坊してえらいことになりましたが(笑) PLI(語学学校)は駅のすぐ近くにあるビルの7、8階にあります。初日はオリエンテーションの後、プレイスメントテスト(PCでの簡単な Reading, Listening), writing, academic advisor との面談がありました。

③ 語学研修期間 (ESL, Academic Skills Study)

◆ 語学研修先の施設・環境について

交通の便はすごくいいです。ビルの1階部分には Tim Hortons というカナダではスタバとの2大勢力ともいわれるコーヒー・ドーナツ屋さんがあります。サンドイッチのようなものもあり、昼ごはんはよくここで食べました。ただ、気を付けないと体重がえらいことになります(笑) 先生やスタッフの人もフレンドリーなので過ごしやすかったです。パソコンルームや、電子レンジや冷蔵庫が置いてあるラウンジもあります。教室によっては冷房が効きすぎる部屋もあったので羽織りものは必須でした

◆ 授業内容、課題、試験

私は協定先の大学に行くために受けなければいけない UFC(University Foundation Certification)と呼ばれるコースの前の1か月間は普通の ESL の授業を1日3コマ取っていました。私は Writing と Speaking に自信がなかったので advisor に相談して

* core skills(4 技能を駆使した授業)

* listening/speaking

* writing

を受講していました。

UFC は2つの term に分かれていて、私が最初に受けたのは term2 だったのですが

* TOEFL 対策 2 コマ (IELTS も選択可能)

* writing

を受けました。ここで TOEFL の先生がすごくいい先生で、今まで全然できなかった TOEFL もこの授業を受ける中で自信がつくようになりました。(実際現地で受験しましたが大幅にスコアアップしました！)

Term1 では

* reading/writing

* vocabulary

* speaking/listening

④ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

建物はレンガ調で同女と似た雰囲気です。図書館も大きく、writing center などの支援制度もあります。基本的に館内はどこでも wi-fi が飛んでいて、どこにいてもインターネットが使えます。芝生も多く、晴れの日には寝転がって昼寝したり、予習の reading をしたりします。Sackville の人口の大半が Mount Allison の学生なので、静かでかわいい街ですが、週末は寮内や student center の pub でにぎやかにパーティーが行われたりします。

◆ 履修科目

7月に自分の ID がメールにて配布されるので、順にすべて online で登録していきます。(同時に寮や meal plan の登録もします) 授業は 1 セメに 5 科目まで取ることができます。曜日、時間は自分で管理しないといけないので、他の授業とかぶらないように気を付けなければいけません。定員があるので開講されていても登録できない場合があるので早めにやっておくべきです。ただし、授業が始まってから約 1 か月の登録修正期間があるので、もし空きがなくても諦めずに waiting list に登録するなり、教授、または register office にメールするなりして交渉してみてください。実際に私は pre requisite のいる科目は register office の指示に従い、学部長の許可をもらいました。また、waiting list にも人がたくさんいて取れそうになかった授業も諦めずに毎回出席して、教授と直接話をしているうちに空きがでて、登録することができました！要は交渉が大切です！気になった授業は登録できなくてもどんどん出てみてください！絶対に損はないです！ID と同時に Mount Allison の mail adress も配布され、学内の連絡などは全てそこにくるので毎日 check してください。

◆ 授業、レポート、定期試験

Introduction to Anthropology: 1 回生用の授業で、学校で一番大きなホールで 300 人程度で受講します。文化人類学の 4 つの分野 (言語、文化、考古学、自然) を 4 人の教授によって一通り網羅します。教科書が分厚く、1 時間に 1 チャプター進むので予習が大変でした。Mid2 回と final の計 3 回のテスト (全て選択問題) で評価されます。またテストに自信のない希望者は 5 回の Lab (上回生の Teaching Assistant による復習や簡単なロールプレイ) と web 上での小テスト 5 回、ethnography book review を追加することで、配点を変えることができます。

Culture and Communication : Anthropology の 2,3 回生用の授業です。教科書の他に 2 冊の ethnography を用いて、文化による言葉 (英語) の違いを学んでいきます。基本的には講義形式ですが、授業の最後にその chapter の実例となる ethnography の要約をします。Mid

1 回、800 字程度の小レポート 2 回、2000 字レポート 1 回、journal、50 分のグループプレゼンテーションで評価されます。Pre requisit が必要となる授業でしたが、私が一番興味を持つ分野だったので、教授に交渉して受講しました。

Canadian Studies:1,2 回生用の授業で、カナダの文化、政治などの歴史を学びます。週 2 回の授業のうち、1 回は講義、1 回は別の教授による少人数の tutorial でした。Tutorial では初めの 5 週間、200 字程度のレポートを提出することで最後の 3000 字 essay の構成や文法の精度を高めます。私は writing が苦手だったので図書館の writing centerに通ったり、教授の添削を参考にしたりすることで初めは C+だったものが A をもらえるようになりました。レポートの他は tutorial での presentation と参加度、mid と final で評価されます。

Introduction to the Study of Language:おそらく 1.2 回用の授業で(私が受講した時は上回生が多かったですが)、軽い discussion を含めた講義形式です。Moodle を使った online discussion や online test が 3 回ずつ、mid と final、5-8 ページの project paper で評価されます。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

大学に入ってから Mosaic と Japanese Culture Society というサークルに入りました。イベントを行うことで International students の輪が広まったり、Canadian に各国の文化を紹介します。ただレポートが多くなったり、予習が追いつかなくなったりで、後半はあまり余裕がありませんでした。

また、International office 主催の Mentorship program にも参加しました。同女というビックシスター制度のようなものです。Program に参加しているメンバー全員で Halifax や Prince Edward Island へ日帰り旅行にいたり、月一回は一緒にご飯を食べたりしました。私の mentor は 3 回生で同じ歳の (私は 1 回生扱いですが) 中国人の女の子でした。学校のことだけではなく、international students ならではの話ができて、すごくいい機会でした。

⑥ 現地での住まいについて

トロントでの語学研修期間中はギリシャ人のホストマザーの元でホームステイをしていました。基本的に私と彼女の 2 人だったので、ご飯を食べる時に一緒に話す程度でしたが、大雑把でざっくばらんな人でした。週一回 puppy sitter をしている妹が子犬を連れてやってきました。(私は犬が苦手なのですが笑) 家は綺麗! という感じではなかったのですが、私も大雑把な性格なので、ホストマザーとは合っていたような気がします。買い出しに行ったり、夜は DVD を観まくったり、干渉されすぎることなく、のんびりした日々を過ごしていたように感じます。ご飯はあまり美味しくなかったです (笑)

正規科目履修期間は Bennett という寮に入っていました。この寮は基本的に Party house でいつも賑やか(というかうるさい)でした。Roomie は偶然日本人でしたが、彼女は高校からカナダに来ているのでペラペラでした。なので、英語で話したり日本語で話したりという、ストレスのないようにしていました。周りの部屋はうるさかったけど、roomie と RA と呼ばれる各階のリーダーのような人がすごくいい人だったので、なんとか過ごせました。ホームステイ先は語学学校が手配してくれました。家は駅からバスか徒歩で 10 分、そこから TTC と呼ばれる地下鉄に乗って 30-40 分という感じでした。Downtown にも行きやすく、家周辺は静かで治安はよかったです。部屋は広く、テレビもありました。ただ、ホストマ

ザーが超めんどくさがりのため、部屋ほこりっぽく、ちょっと清潔感に欠けてました。朝ごはんは何を食べてもいい、と言われていたので、ベーグルやシリアルを食べていました。晩御飯は作ってはくれるのですがちょっと雑でした。週2回ぐらいはテイクアウトでチキンやピザを買ってきてくれました。まあこれは家庭によると思うので、気に入らない場合はすぐに語学学校に相談するべきだと思います。（滞在期間の半分が過ぎてしまうと残りのステイ費（一括で支払い済み）を返してもらえません。）

⑦ 長期休暇の過ごし方

語学研修と正規授業の間に休暇がなかったので、週末を利用して友達と French Canada(Ottawa, Montreal, Quebec)や NY, Washington, Boston, Chicago など様々なところへ旅行しました。正規授業が終わってからは、一人で Banff, Calgary, Victoria, Vancouver を旅しました。折角の機会なので色んなところで色んな経験をするのがいいと思います。

⑧ 留学期間中の就職活動の取り組み

リクナビに登録する程度で特にエントリーしたりなどはしていませんでした。私たちの年から就活開始が12月からになり、合同説明会が始まる程度だったので特に支障はなかったです。業種にもよりますが、1月からでも就活は十分間に合うと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

多国籍の友達を作れたことです。特に語学研修中は、異国の地で母国語とは異なる言語で生活しなければならない、という同じ状況にいる人がたくさんいるので、年齢に関わらず、様々な人と関わります。そんな人たちと一緒にご飯を食べたり、お酒を飲んだり、旅行をすることはとても楽しい時間だったし、お互いの国を知れるいい経験になりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

ホームシックにはかかりませんでしたが、日本食シックになりました。食べたい時に食べれないというもどかしさがありました。トロントにいた時はレストランがあったのでよかったのですが、大学へ行くと、食堂にかろうじて白飯があるぐらいで、日本食からはかけ離れます。最終的にサラダと塩ご飯を食すという生活サイクルができ、ひもじかったです（笑）他の日本人の子達と協力し、皆で持ち寄ったふりかけを日替わりで使う、というようなこともやっていましたが。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

Tax とチップです。何かものを買う時には書いてある値段と払わなければいけない値段が違うので金銭感覚が狂います。12.3%やらで、自分で計算もできず、レジの前であたふたするか、とりあえず紙幣を出して小銭が増えるか、という感じでした。地下鉄の駅においてある無料の新聞があるのですが、みんな電車で読んで、そのまま放置して、また違う人が読んで、というのが面白かったです。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

大学以外特に何も無い街なので、勉強に集中できます。また、生徒数も多くないので、だ

いたい見たことある人、が多いです。また、カナダの大学 (評価?) No.1 ということもあり、賢い、というよりは個性的な生徒が多く、彼らの発想も独特で勉強になります。近くにある雑貨屋さんとかフェは大きくはないですが、のんびりとした空気が流れていて、安らぎの場になりました。

逆に悪かった、というか葛藤したのはやはり MASSIE と間違われることです。私も過去の体験記を読んで、彼らの存在を知っていたし、現に Toronto-Moncton 間の飛行機は彼らと同じ (というか隣の席) でした。Exchange students と MASSIE の扱いは違うし、やはり彼らの待遇を羨むこともありました。しかし逆に言えば、私たちは彼らが来る 5 か月前からカナダにいる、という advantage があるんだと考え、他の人に間違えられても胸を張って “私は交換留学生として正規授業を受けているんです” と言えるようになりました。わかってくれる人はきちんと理解してくれているので、その人たちには救われました。あ、ちなみに MASSIE の子たちも悪い子じゃないので何人か友達になりましたよ^^

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必需品です。語学学校や大学にもパソコンはありますが、家族や友達と絡を取ったり、レポート作成 (日本の授業ものより時間がかかるので大学に入れば肌身離さず持って、いつでも書ける状態にしてました) にも欠かせないです。私はスマートフォンを持っていなかったのですが、日本に比べて wifi 環境が整っているの、持っているとう便利です。(私は ipod touch を Toronto で購入しました笑)

あとは日本食です。これ大事です。トロントには日本食レストランがたくさんあるので、寿司はいつでも食べれます。日本雑貨屋さんも一軒ありますが、3 倍ぐらいの値段します (納豆 300 円とか) なのでお菓子とか、お茶とかは持っていくと心が安らぐかもしれません。

③ 語学力の向上等、留学の成果

帰ってすぐに TOEIC を受けようと思っていたのですが、4 月に学内であるからいっか、と受けませんでした。就職活動では IP テストは英語試験の免除の対象外になるところもあるので、受けておけばよかったと思いました。元から聞き取りは得意でしたが、更に聞き取りやすくなったと思います。洋画はもちろん、ニュースでもなんとなく理解できます。また観光客に出会うとすごく話しかけたくなります (笑) 自分の英語が上手い下手に関わらず、話したい! という、積極性がついたのかな、と思います。カナダで道を聞いたり、いろんな人にお世話になったりしたので、これから恩返ししていきたいです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学してみたいけど、一人で見知らぬ地に行くのは怖い。英語は全然話せないけど大丈夫かな。と思っている人は絶対挑戦してみるべきだと思います。英語が上達するだけでなく、いろんな人との出会いがあり、日本を外から見ることで、すごく価値観が変わります。私は実家暮らしで今まで一人で行動する (例えば一人で銀行口座作る。ご飯を食べに行く。飛行機の手配をして一人で乗る) ことがありませんでした。しかし留学先で手伝ってくれる人はいても自分の代わりにやってくれる人はいません。全て自己責任です。でも、それができるたびに、達成感と成長を感じられます。勉強も遊びもしっかり、後悔の無いように、貴重な機会を楽しんでください。きっと心身共に成長できるはずですよ。

IV. 写真



Niagara Falls です。ツアーで行ったり個人的に電車や、カジノバスを使って行ったりなど 3 回行きました。夏の天気の良い日は二重の虹が見えます！



Mount Allison での International Orientation で海に行った時です。各国から集まってきた留学生（交換留学生や4年間通う人たちも）は Canadian よりも 1 週間ほど早く大学に行って、Orientation を受けます。リーダーたちが工夫を凝らして説明やゲームをしてくれ、友達をつくる初めのステップになります。